



博物館通信

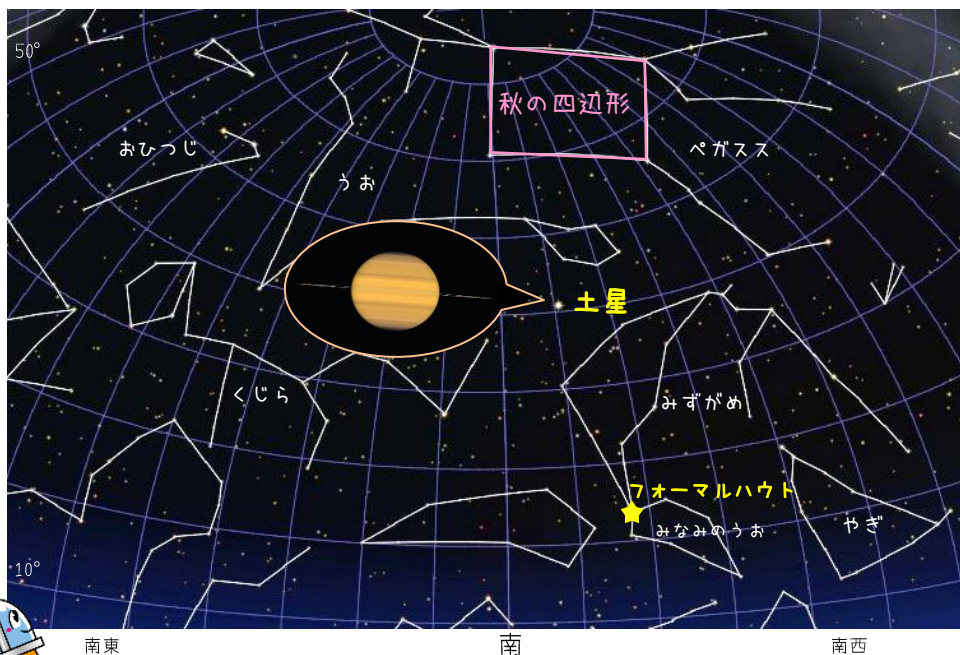
秋号



2025 年 10 月 発行 Vol.97

見頃の土星

秋になると土星が見ごろを迎え、夜遅くまで見ることができます。そして、これまでの博物館通信でも紹介しているように今年は細い土星の環を見ることができます！ぜひ望遠鏡で見てみよう!!



土星は秋の星座の中、1等星の明るさで輝いているので、すぐに探せます。

大きな環が特徴的ですが、地球と土星の位置関係によって、約15年周期で環の傾きが大きくなったり小さくなったり環の見え方が変化します。そのため、傾きが小さいと環が消えてしまったかのように見える「環の消失」が起こります。



11月24日20時ごろの空 (ステラナビゲータで作成)

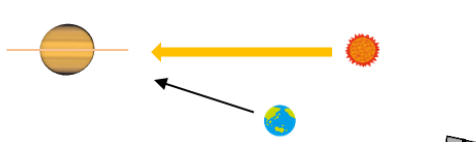
環の消失

環が見えなくなる条件

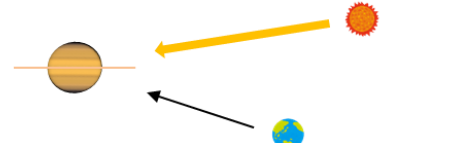
①環を真横から見る



②太陽が環の真横から当たっている



③土星に対して地球と太陽が南北に分かれる



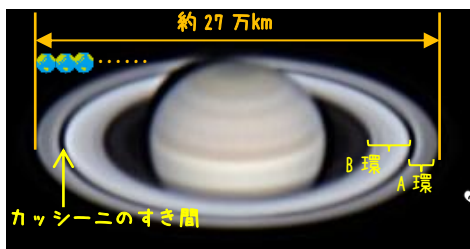
今年の3月24日には条件①が起き、5月7日は条件②によって環が見えなくなりました。また、3月24日～5月7日の間は条件③によって見えなくなりました。しかし、この時期は昼間に土星が見えているため観察することはできませんでした…。

条件②、③は地球から見えている方向に太陽の光が当たっていないから、環が真っ暗で見えないんだね

9月からは夜空に輝くので、細い環を見るチャンス！ 11月24日には条件①に近くなるため、ほぼ環のない土星の姿を見ることができます！

環の正体！

土星の環は、主に数十 cm から数 m ほどの小さな氷の粒でできており、たくさんの氷の粒が土星の周りを回っていることで、全体として輪のように見えています。環の直径は約27万kmととても大きいですが、厚みは平均して150mほどと非常に薄いため、真横から見ると環が消えてしまったかのように見えるのです。

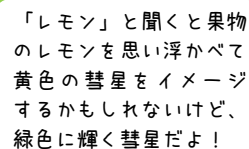
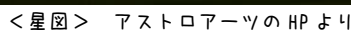


27万km!?
地球の直径は約1万2700kmだから地球の約20個分!?

密度の濃さからA環～G環に分けられ、A環とB環の間には地球から見ると黒い隙間として見える「カッシーニの隙間」も望遠鏡で見ることができます。



レモン彗星は、2025 年 1 月にアメリカのレモン山天文台によって発見されました。レモン彗星が木星の軌道より地球に近い位置にやっていたのは 1,396 年前! 次 に 接近する のは 西暦 3,421 年になると考えられています。

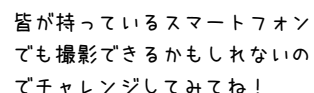


★肉眼で見える明るさと言っても少し暗めなので、双
眼鏡を使うのがオススメ！

★空低い位置に見えるため、山や建物がなく、できるだけ地平線が見渡せる開けた場所での観察！

地球に最も近づき明るく輝く 10 月 21 日は新月のため、月明かりの影響がなく観察がしやすいでしょう。この時期には 4 等級前後の明るさになると予想されています。

また、21日はオリオン座流星群のピークにもあたるので、彗星と流星群を同時に楽しめる珍しい天文ショーになるかもしれませんね！



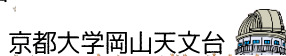
※詳しくは当館HPをご覧ください

10/25
(土)

3施設の
特別公開!!



国立天文台



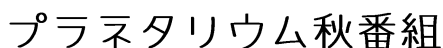
京都大学岡山天文台



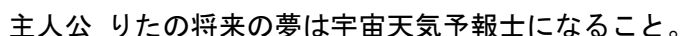
大きな望遠鏡を前に研究者のお話が聞ける！普段は聞けないみんなの疑問に答えてもらえるかも!?
工作やスタンプラリーなども開催予定。みんなで天文について楽しく学ぼう!!



Takeout ランチも OPEN 予定



「宇宙天気予報は放課後に、」



今はまだ「宇宙天気予報士」という職業はありませんが、りたは近い将来絶対に必要となる仕事だと考えています。

ある日の放課後、夢についての授業がきっかけで、同じクラスの祐香と遥斗と話をすることになったのですが……。

みんなで宇宙天気について考えたり、VR（仮想現実）で宇宙を体験したり、普段とはちょっと違う放課後のはじまりです。



岡山天文博物館

〒719-0232
岡山県浅口市鴨方町本庄 3037-5
TEL/FAX 0865-44-2465

<http://ww1.city.asakuchi.okayama.jp/museum>

